

| | |
|---------------|--|
| 氏 名 | 河 原 由 子 |
| 授 与 し た 学 位 | 博 士 |
| 専 攻 分 野 の 名 称 | 医 学 |
| 学 位 授 与 番 号 | 博甲第5281号 |
| 学 位 授 与 の 日 付 | 平成 28 年 3 月 25 日 |
| 学 位 授 与 の 要 件 | 医歯薬学総合研究科生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当) |
| 学 位 論 文 題 目 | Simultaneous assessment of cognitive and affective functions in multiple system atrophy and cortical cerebellar atrophy in relation to computerized touch-panel screening tests (タッチパネル型スクリーニングテストを用いた多系統萎縮症と皮質性小脳萎縮症における認知機能の評価および情動機能の評価) |
| 論 文 審 査 委 員 | 教授 淺沼 幹人 教授 伊達 勲 准教授 吉永 治美 |

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

【目的】多系統萎縮症 (MSA) および皮質性小脳萎縮症 (CCA) における認知機能および情動の特徴、タッチパネル式スクリーニング検査の有用性について検討する。【方法】MSA-C 患者、MSA-P 患者、CCA 患者の神経心理検査およびタッチパネル式スクリーニング検査の結果を正常コントロール群と比較した。【結果】MMSE, HDS-R, FAB, MoCA は MSA-C 患者において有意に低下していたが MSA-P 患者では有意な認知機能低下を認めなかった。CCA 患者は FAB と MoCA の有意な低下を認めた。また、3 疾患においてうつ状態を認めた。タッチパネル式スクリーニング検査では、3 疾患において鬼ごっこ課題の有意な正打率の低下を認め、MSA-C 患者においてカードめぐり課題の有意な所要秒数の延長を認めた。【結論】MSA-C 患者、MSA-P 患者、CCA 患者の認知機能ではそれぞれ異なる特徴を認め、タッチパネル式スクリーニング検査は MSA および CCA の認知機能評価に有用である可能性が示唆された。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、多系統萎縮症(MSA)および皮質性小脳萎縮症(CCA)における認知機能および情動機能の特徴とタッチパネル式スクリーニング検査の有用性について検討したものである。小脳失調優位の MSA (MSA-C)では 4 種、CCA では 2 種の認知機能テストのスコアが有意に低かったが、パーキンソニズム優位の MSA-P では認知機能低下を認めず、タッチパネル式スクリーニング検査の課題においても MSA-C での特徴的な所見がみられた。タッチパネル式スクリーニングが MSA および CCA の認知機能評価に有用である可能性を示唆する研究として、価値のある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。